

令和7年度 順天堂大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）点検・評価結果

医学部

点検・評価項目	点検結果（コメント等）	評価
A：履修状況 ・履修者数・履修率、目標の達成状況 ・学生の履修を高めるための取組 ・学生の学修成果の把握	<ul style="list-style-type: none"> 「統計解析のための数学」、「データサイエンス基礎」は、いずれも1年次の必修科目であり配当年次の履修率は100%である。「疫学・統計学・数理科学」は、既設の科目「疫学・統計学」にAI基礎やプログラミングなどを数理科学として追加し、2025年度より3年次の学生を対象に必修科目として開講している。 全ての学生が履修するプログラム構成となっているため、これを継続し、またプログラムの周知にも注力することにより、学部全体での履修率は向上していく見込みである。 	A
B：プログラムに対する学生の評価 ・学生の理解度、満足度は十分か ・後輩他への推奨度	<ul style="list-style-type: none"> 学生アンケートによると、講義内容の理解に関して、「強くそう思う」「そう思う」を合わせた肯定的な回答は96.3%であり、テストの結果などを見ても十分な理解がなされたと考えられる。 	A
C：プログラムの構成・内容、指導の工夫 ・学ぶ楽しさ、学ぶ意義を教える授業となっているか ・内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業となっているか ・学生の理解やスキルの獲得を助けるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 学生アンケートにおける「授業に対する教員の熱意が感じられたか」の項目において、肯定的な回答は96.3%であった。教員の熱意だけでなく、この科目的学ぶ意義や数理・データサイエンス・AIの学ぶ楽しさが十分に伝わっていると考える。更に内容の充実を図り、専門科目や他の科目との関連性を意識させるような取り組みを図る。 プログラムの科目は、生成AIの活用についても積極的に取り入れ、その実習も行っている。また、社会の変化や専門分野の内容の変化に常に着目し、今後も科目内容に取り入れていく予定である。 	A
D：質問・相談等への対応 ・学生からの質問・相談に対応する体制は確保されているか ・授業課題や学生の参加に対し、効果的なフィードバックを行ったか。	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの質問や相談への対応に関しては、公衆衛生学の担当や授業担当者が中心となり、授業外での対応・質問等を受け付けていた。 授業課題に関しては、フィードバックを行い、学生の理解に努めていた。 	A
E：修了生の進路・評価 ・教育プログラム修了者の進路・活躍状況	<ul style="list-style-type: none"> 本学部としては応用基礎レベルについては申請中であり、修了生が卒業していない。今後、各種アンケートを通じてプログラム修了生の進路、活動状況等の状況を把握し、評価することとする。 	F
F：学外からの評価 ・プログラム修了者に対する企業等の評価 ・教育プログラム内容・手法等に関する外部意見	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では、本プログラムに対する外部意見を把握できていない。今後、本学全体の「外部評価プロセス」を活用しながら、本プログラムの妥当性・有効性に関する外部意見を聴取することとする。 	F

【評価の基準】 S：高水準にある/目標以上の成果があった、A：ある程度の水準にある/ある程度の成果があった、B：不十分な水準にある/改善が必要である、F：判断材料の不足により判断できない